

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290600091		
法人名	社会福祉法人花の村		
事業所名	グループホーム合歓の丘		
所在地	島根県江津市後地町2935-4		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年2月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

敷地内には多目的広場があり、地域交流としての機能も兼ね備えています。同法人の認定こども園も側にあり、行事への参加、見学も可能です。定期的に園児も遊びに来てくれる等、交流を持たせてもらうことができていましたがコロナウィルス感染拡大に伴って交流の機会が減少しています。また、敷地の空きスペースを活用した花壇、畑を利用者さんと一緒に作り、さまざまな四季折々の花や野菜などを栽培することで、外出、体を動かす機会、運動の量を多くとれるよう職員一同意識した支援を行っています。ミーティング開催時の時間を活用し各自それぞれテーマを持ち寄り、学習の機会を設け研修や研鑽にも力を入れています。そして、グループホーム合歓の丘では温泉入浴も可能で、利用者さんにとっても喜んでいただいています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設以来、理念に沿って実践し、地域住民や関係者、家族と信頼関係を築いている。職員は利用者一人ひとりを大切にし様々なきっかけや場面を作り主体的な生活を引き出す支援をしている。コロナ禍でも感染対策に留意し法人内の事業所と連携し合同の「お楽しみ会」や敬老会、貸し切りカフェなど外食を楽しむ創意工夫を凝らした支援をしている。自然豊かな敷地周りには花壇や畑があり、野菜の収穫や日々の散歩など利用者の力を活かした役割や楽しみごとに活用している。現在、畑などはイノシシによる被害が大きいですが、今後、整備しコロナ収束を見据えた地域交流の拠点としてさらなる活動を検討している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のミーティングの際、事業理念の唱和を必ず行っている。理念、行動指針については職員間でも共有し、それに基づいた行動を意識した支援に結びつけている	事業理念や行動指針に基づき日々の実践を意識して取り組み、毎月ミーティング時に唱和し確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスが拡大してからは地域の行事自体が中止となり地域に出る、参加する機会が減少している。買い物時のお店に出る行動も感染状況に応じて実施しています。	コロナ感染状況に留意しスーパーマーケットでの買い物ができるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解や支援の方法は様々な出かけた際、地域の方に理解していただける様、運営推進会議などを通じて意識しながら支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、利用者やサービスの取り組み等の状況について報告や話し合いを行っており、いただいたご意見をサービスの向上に活かしている	利用者の状況や行事、研修内容、感染対策など報告し意見交換をしている。委員から情報提供を受け活動に繋げている。今年1月からは書面での開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報交換、共有も出来ており、必要な時は随時連絡を取らせてもらっている。現在も月1回、市町村担当者の方にもお便りを届けている	運営推進会議や毎月のたよりで状況を伝えられている。必要な時にはその都度連絡を取り協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議でも毎回議題にあげて、検討する時間を設けている。また、ミーティングの際にも職員全員で学習の機会を設け、意識の向上に取り組んでいる	研修に参加し毎月のミーティングで気づきなどを話し合い振り返りをしている。運営推進会議でも毎回状況と身体拘束をしない取り組みを報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で学習の機会を設け、意識の向上に努めている。発見した場合など躊躇なく報告するよう話している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関心を持ってもらえるよう意識はしている。制度は理解しており必要性の生じた場合は活動できる体制は整っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解除、改定の際は利用者・家族に丁寧な説明を心がけ理解と納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会としては運営推進会議や外部評価を想定しているが、面会時や家族会でのご意見や要望も反映できるようにしており、運営推進会議の議事録も閲覧できるよう玄関に設置している	コロナで家族会の開催ができないが毎月のたよりで日頃の様子を写真やコメントで伝えている。必要な時にはその都度連絡を取り協力して取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや、随時業務の中で意見や提案をもらい、法人全体のリーダー会議や全グループホーム合同での事業所別会議でも提案、反映できる仕組みがあり活用している	管理者と職員は日頃から何でも言えて相談しやすい関係がある。管理者から一人ひとりに声をかける機会を作っている。要望があった法人の看護師部会が新たにできた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが意欲的に働けるよう職場環境、条件の整備に努めており、処遇の改善も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会も法人内で設置されており、研修を受ける機会も確保されている。また、職員のレベルが向上する様日々の業務の中で意識しながら取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人のGHと協議し、お互いの運営推進会議に有識者としてお互い出席しあう仕組みを作っている。勉強、交流できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等には丁寧に耳を傾け、面談や見学の際においても場所、時間帯を含め、自分のことも話し安心してもらえるよう信頼関係づくりに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等にも丁寧に耳を傾けることで家族の安心確保に努めている。面談、見学の際も場所、時間などに配慮している。写真などライン等通じて様子がわかるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時まず必要としている支援の見極めはできている。GHは制限等もあるが他のサービスも含めた対応に努め、ご意見ご要望を伺いながら支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何か行う際は必ず一緒に行動するようにし、役割を持っていただける様支援している。暮らしを共にする者同士家人として考える様にしている。関係も築けていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子をお伝えしたり、本人からも電話の出来る環境も整っている。面会、家族会などの機会も大切にし、絆を大切にしながら支援している。面会が困難な際にもオンラインで顔が見えるような環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と同じ地域の方が、併設の小規模多機能施設へ来られた際は、行き来して交流をもってもらっている。買い物も地元のお店を選び行くようにし、関係が途切れないよう支援している	家族会の代替えとして一人ひとりのアルバムを利用者も一筆添えて一緒に作り家族に送っている。面会は感染状況に注意しながら柔軟に対応しオンラインや窓越しなど工夫して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりの時間、共有する時間、両方に配慮しながら利用者一人ひとりが孤立しないよう、また、トラブルにつながらない様、間に入りったり、模様替えなど行い環境の変化をし、利用者同士が関わり合いが出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了になったケースがなくこの項目については評価ができません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分がその立場ならを心掛け、決して無理強いせず表情にも気をつけながら、丁寧に生活歴なども把握し本人らしい生活が出来るように支援している	利用者に寄り添い表情や言葉、様子から思いや意向の把握に努めている。場を変えて静かな環境で聞いたり、状況によっては対応する職員を替え思いを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族さんから初回時だけでなく、面会時などにも情報収集し把握することに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かする時でも出来るだけ見守るようにして観察し、小さな変化にも気づけるように日々の観察を大切にしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に情報が共有できる様、口頭での話し合いはその都度出来ている。それぞれの意見などは介護計画作成の際に活かされている	面会時や電話で利用者や家族の要望や暮らし方を聞き現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきなど、日誌や個人記録や連絡ノートへ記入し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれないように様々な角度からのアプローチを心がけ、常に新しい考え方を取り入れる様努めてはいるがもう少しである		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の能力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しめるよう地域資源の活用も意識しながら支援にあたっている。隣接の認定こども園とは交流が続いているが手段、方法については検討が必要		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と常に連携をとり、本人家族とも話し合いながら適切な医療が受けられるよう支援している	利用者や家族と話し合い訪問診療や受診対応をしている。医師と連携して支援し、家族にきちんと状況を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も意識は高く連携も取れている。適正な受診や看護を受けられる体制は整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、主にMSWとの情報交換や相談はできている。併せて出来るだけ早期に退院できる様日ごろから関係づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と話し合い、事業所で出来ることを十分説明しながら方針を共有し、看護師ケアマネを中心にチームでの支援に取り組んでいる。	利用時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し家族の意向を確認し、関係者と方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修は年1回は全員受ける機会が設けてある。それ以外であっても、機会があればどんどん参加するよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は定期的に避難訓練を行っており、地域との協力体制も整っている。夜間の想定訓練も行っている。また備蓄についても行っている。	併設する事業所と合同で訓練を行い協力体制を築いている。コロナ禍での災害対策でマンパワーの不足事態も考え備蓄食料品の見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修も機会を設けているが、例えばトイレなど同姓対応に努めたり、その都度表情や仕草にも配慮しながら一人ひとりに合わせた言葉がけにも努めている。カーテンで仕切りも作っている	施設内研修で理解を深め意識して取り組んでいる。共同空間での生活場面が多いが共同の場でもカーテンで仕切ったり居室利用を心掛けるなど工夫した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問の問いかけ方も変えてみたりして、出来るだけ自己決定が出来るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度本人に希望を聞いて、それに沿って支援するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服も一緒に選ぶようにしている。出来ていると思う		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ごとに一緒に準備しており好みや本人の能力も活かしている	利用者は職員と一緒に調理や下ごしらえ、片付けなど行っている。旬の食材を使い日々の料理や行事で焼きそばやたこ焼き、焼き芋、サンマ焼など多様な場面で季節を楽しむ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の意見も取り入れ一人ひとりの状態や習慣に応じた支援を行っている。お茶ゼリーにしてみたりと工夫もしている。チェック表など日々記録も取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた対応も出来ておりケアはできているが毎食後にはなっていない場合もあるが、観察は行うよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者本人にも都度説明し、職員間でも排泄のパターンも共有できている。自立にむけた意識も持ちながら支援している	一人ひとりの排泄状況や思いを大切に支援している。適切なパットの使用や当て方を工夫、検討し安眠できたケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の量、水分補給にも努め、出来るだけ自然排便を促している。飲み物、食事内容にも気をつけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉入浴については使用時間帯が決まっているが、希望は都度確認し、一人ひとりに合った支援になるよう努めている。	法人の温泉施設の利用はコロナ禍ではできないが事業所の入浴施設でゆっくりと一人ひとりのペースで体調に合わせて支援している。季節のゆず風呂など楽しむ取り組みをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴をしたり、日中は散歩、運動を意識して過ごしていただけるよう配慮している。排泄のタイミングや喉の渇きなども注意して気持ちよく眠れるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターや薬剤師の方とも連携もとれている。薬の効能などファイルに綴り、すぐ確認共有できる状態にしてある。ミーティングでも勉強会を開いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブ、花壇の世話、畑仕事、料理、買い物、頭の体操など一人ひとりに合った役割や楽しみ、気分転換に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナウィルスが拡大してからは施設周辺での活動が主となっている。感染症の拡大に伴って外泊へのニーズが減っている。また外泊の申し出を頂いても感染状況に依る対応となっており、外泊の機会を作ることが難しい。	花見や紅葉見物など利用者の希望を取り入れドライブに出かけている。事業所周りの散歩や栗拾い、テラスでの日光浴、花壇や畑で外気に触れる機会を多く作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理そのものは職員で行っているが、一人ひとり要望があれば自由に使い、買い物にも一緒に出掛けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ている。支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開閉式のカーテンを設置し共有の空間の使い方に幅を持たせている。トイレは職員も出入りして温度、湿度、臭いなど、快適かどうか確認している。また出来るだけ季節の花を生けたりと季節感を感じていただけるよう配慮している	手作り作品の展示や行事や日頃の写真など季節感や生活感を大切に工夫をしている。複数の開閉式のカーテン利用やソファ、椅子で思い思いに寛げる場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	開閉式のカーテンを設置し共有の空間の使い方にはばを持たせている。その都度思い思いに過ごせるような居場所づくりに配慮工夫している。もっと談話コーナーの活用を検討したい		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人家族と相談しながら作っている。一人ひとり本人が居心地よく過ごせるよう対応している	家族と相談し筆筒や、テレビ、写真などを持参している。職員は転倒など事故が起きないよう居室環境に注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、分かることを活かした上で、安全にも配慮しながら工夫している。自立支援が出来るよう都度工夫している		